

大学コンソーシアム石川が運用するUCIポータル

～平成20年度戦略的大学連携支援事業（戦略GP）採択プログラムの成果として～

人間社会研究域歴史言語文化学系／戦略GP支援企画委員会委員長 古畑 徹
 総合メディア基盤センター／戦略GP支援企画委員会委員 森 祥寛
 大学コンソーシアム石川 e教育支援センター 水元 明法
 山田 智子

1 はじめに

平成20年度、文部科学省の補助事業である「戦略的大学連携支援事業」、通称戦略GPに、金沢大学が中心となって企画した「大学コンソーシアム石川¹（以下、UCIと言う。）を中心とした共通の教養教育機関とICT教育支援体制の構築」が採択されて3年たち、この度事業終了を迎えました。本事業では、「10年後におけるUCI参加高等教育機関共通の教養教育機関の創設を見据えて、UCIの活動を飛躍的に強化することを目指す」という大目標を示しました。

戦略GPとは、この10年後の大目標に向けた走り出しを助けるためのものであり、補助事業終了後も、活動を継続させ、発展させていくことが求められています。本稿では、補助事業によって準備したシステムについて紹介し、今後の事業継続及び発展についての可能性を紹介します。

2 UCIを中心とした高等教育機関におけるICT活用の取組

UCIには、石川県内20の高等教育機関が参加し、その

全学生数は33,228名（平成20年5月1日現在、石川県統計書より抜粋）です。これは人口当たりの高等教育機関数では全国2位に、人口当たりの学生数では全国5位にあたります。しかしながらその内の1万名が金沢大学学生であり、7千名強が金沢工業大学の学生です。北陸大学、金沢星稜大学が約2千名の学生数として続きます。

従って、学生数を踏まえると、各高等教育機関で学習管理システムを始めとする、ICT教育を実施するための様々な機器やシステムを所持し、サービスを提供していくことは、およそ現実的ではありません。そこでUCIにて、これらシステムとサービスを準備し、石川県内の高等教育機関であれば、ICT教育や各種ICTに関するサービスを利用したい時に利用することができる体制を作り出すことにしたのです。大きな枠組みとしては、ICT教育を実施するための基幹システムである「UCIポータルの構築・運用」とICT教育の実施に向けて、様々なサポートを行う「e教育支援センターの設置」です。

特に、ICT教育の実施には、それを利用する学生、教員、職員等をサポートする組織が必要であり、e教育支援センターは、今後の取組の要となるでしょう。UCIには、それを踏まえた上での組織の維持・運営に努めてもらいたいと思っています。

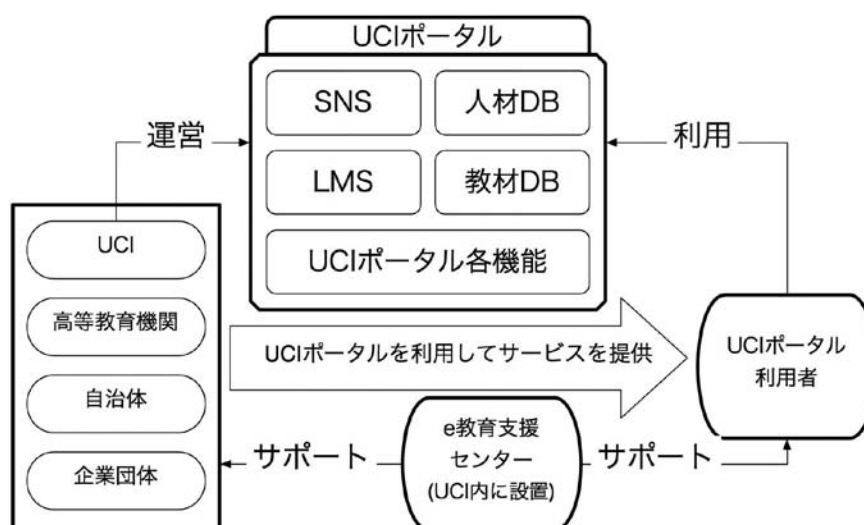


図1 e教育支援センターとUCIポータルの関係

1. 平成22年7月1日、大学コンソーシアム石川は、事業の充実と地域社会の連携を促進するため「一般社団法人」として新たな一歩を踏み出しました。



図2 UCIポータル画面



3 UCIポータルの機能概要

ICTを活用した教育の実施に向けて、ここでは、UCIポータルを使ってできることを簡単に紹介します。

●情報発信機能

ログイン前とログイン後の各画面に、各種イベントやお知らせ、伝達事項等を掲載できる。

●ユーザー間相互連絡機能

ユーザー個人間での連絡をメッセージとして送受信することが可能。予めメールアドレスを登録しておけば、メッセージを転送することも可能。

●学習管理機能

Moodle²というLMSを用いて、教材や課題を、インターネットを通じて配信することが可能。学習履歴や採点結果等についても集計、閲覧ができる。

●ソーシャルコミュニティ機能

OpnePNE³というSNS(ソーシャルネットワークサービス)を用いて、UCIポータルに登録されたユーザー間のみで「日記」

の公開やインターネット上のコミュニティを作成できる。

●各大学の履修登録機能との連携

UCIポータルとのデータ連携によって、各大学の履修登録用のシステムと連携することができる。これによって、開講される授業をUCIポータル上で開講することが簡単にできる。履修登録をUCIポータルで行うことで、そのデータを各大学にフィードバックすることも可能。

●教材データベース

このデータベースは、OpenPNEを改修して作った、ICTを活用した授業で使用できる様々な教材や教材を作るための素材をアップロードするためのシステムです。教材や素材の公開範囲を決めることができ、アップロード時にキーワードを付けることで検索も可能。

●人材データベース

このデータベースは、高等教育の様々な分野について講師として対応可能な人材を登録し、必要な時に探し、声かけをするためのシステムです。企業研修やメジャー・マイナーな語学の授業等を実施する際に活用することを想定している。

2. <http://moodle.org/>

3. <http://www.openpne.jp/>

●Shibbolethを用いた認証

学術認証フェデレーション⁴でも研究され、使用されている Shibboleth⁵を使った認証機構を用いることによって、各大学で配布しているIDとパスワード、及びその管理システムをそのまま使いながら、UCIポータルを使用できる。

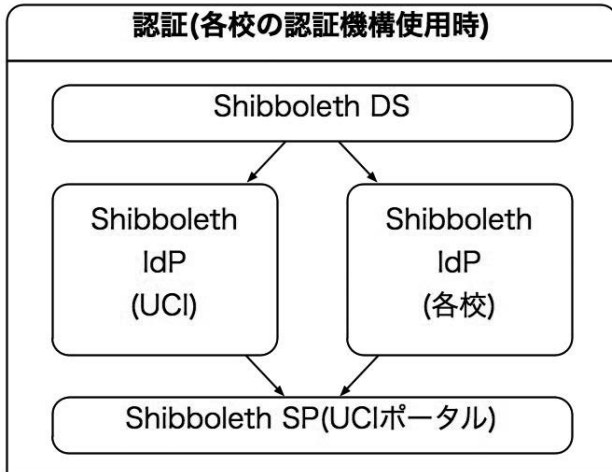


図3 認証機構の概要

4 UCIポータルを利用するためにはどうしたらよいのだろうか

UCIポータルを利用する場合、その方の所属によって申し込み方法や利用可能範囲が異なってきます。石川県的高等教育機関の教員であれば、UCIポータルを基本的に制限無く利用できます。また授業等をポータル上に開講する（LMSに授業用のコースを作成する）ことも可能です。それ以外の石川県民の方であれば、基本的にユーザーとして利用することが可能です。ただし、その利用目的について、e教育支援センターの会議で審査する場合があります。「(学生)サークル活動」「各種研究会」「社会人向け公開講座」「高等教育機関への入学前指導で生徒が利用する」等も同様です。なお、UCIで開講しているシティカレッジの聴講生は、自動的にユーザーとして登録され、ユーザー間の相互連絡等にUCIポータルを利用できます。

もし教員の方が、授業等をポータル上に開講する場合は、最初に、担当者（授業を実施する教員若しくは教員をとりまとめられる方）のeメールアドレスと電話番号（携帯電話でも良い）をUCIに通知する必要があります。LMSに授業用コースを作成し、ICTを活用した教育（eラーニング等）を行う場合には、授業登録用データとして、「講義名」「開講機関名」「通常／集中の区別」「開講年度」「開講期」「開講曜日」「時

限」「教室名」を連絡してください。LMSで学習をさせる学生の情報としては、「氏名」「所属機関」「学籍番号」「学年」「性別」「入学年度」が必要となります。この際に異なる所属の学生が混在していても構いません。学籍番号は、個人が特定できるならば、各機関で使っているものと別でもかまいません。学生以外の県民の利用、入学前教育等では、予めご連絡いただければ、e教育支援センターで管理している番号を割り当てることも可能です。

UCIポータルにログインするためのIDの配布方法は、「機関全体で利用する場合」と「個人で個別に利用する場合」で異なります。まず「機関全体で利用する場合」は、e教育支援センターから送られてくる指定フォーマットの表に利用者データを記入してください。フォーマット通りに記入すると、そのファイルをそのままUCIポータルに登録ができますので、利用される機関で予め管理者を決めていただければ、その方が登録操作及びIDの印刷、配布を行うことができます。そのような管理者がない場合（用意できない場合）は、e教育支援センタースタッフに上記ファイルデータを送付してください。その後、e教育支援センターにて、登録操作を行い、個別にIDが書かれたPDFファイルを作成して、安全な方法で機関担当者に送付・送信します。PDFファイルを受け取られましたら、IDを印刷し、ガイダンス等の機会に配布してください。次に「個人で個別に利用する場合」は、e教育支援センターで（印刷された）IDを、UCIの窓口で（必要な場合には郵送にて）受け取ってください。授業や研究会等、ユーザーが複数存在する形で利用される場合は、教員或いは研究会等のグループリーダーにまとめてお渡ししますので、受け取った方が責任を持って配布してください。

4. <http://www.gakunin.jp/>

5. <http://shibboleth.internet2.edu/>



図4 「石川県政記念しいのき迎賓館」の正面（上）と反対面（下）。旧石川県庁をリニューアルして2010（平成22）年4月オープン。正面は1924（大正13）年建築の旧県庁の外観を残し、反対面のいもり堀側はガラス張りの現代的空間にした。大学コンソーシアム石川事務局ならびにセミナー室A・Bは、この3階に入っている。

5 石川県政記念しいのき迎賓館におけるUCIゾーンの開設

平成22年4月に、「石川県政記念しいのき迎賓館」3階に活動場所が移動しました。ここには「UCI事務局」「セミナー室A（アクティブラーニング対応教室，最大収容人数40名程度）」「セミナー室B（テレビ会議システム対応教室，最大収容人数70名程度）」「交流サロン（一般開放のリラックスゾーン）」が準備され、迎賓館に隣接している石川四高記念文化交流館内の多目的利用室と併せて、シティカレッジ等の授業や公開講座、FD研修会、シンポジウムやフォーラムといったUCI事業に利用しています。しいのき迎賓館セミナー室の稼働率は9割に及んでいます。



図5 2010年12月18日に、北陸三県でそれぞれ戦略GPに採択されている3つの取組が合同でフォーラムを開催しました。写真はその時のパネルディスカッションの風景です。

6 むすび

このようにUCIポータルは、石川県内の高等教育機関及びそこに所属する教職員・学生であれば、直ぐにでも利用できるシステムとなっています。また学生でなくとも、石川県民であれば大学コンソーシアム石川への申請によって利用が可能です。しかしUCIポータルは、あくまでもICT教育を実施するための基盤でしかありません。実際に本システムを使用して、ICTを活用した教育が行われなくては意味のないシステムとなってしまいます。

本補助事業における大目標では、「UCIの活動を飛躍的に強化すること」が最も重要な点です。戦略GPに採択されてから、3年間かけて、様々な取組を実施してきました。残念ながらその全てが非常に上手くいったという訳ではありませんが、少なくとも、補助事業終了後もICT教育を推進していくための最低限の枠組みは整えられたと考えています。

今後のこの枠組みを維持していくためには、e教育支援センターを始めとするUCI提供の各種サポートや、UCIポータル等のシステムを積極的に活用していただくことが必要です。具体的にどのように活用していくかは、教職員や学生の皆様のアイデア次第です。例えば、社会人学生が多くいるゼミや研究室では、各種連絡や研究内容の相談・伝達等にLMSを使用できますし、大学をまたぐような学生活動（ゼミ、サークル、ボランティア等）のコミュニティ形成にSNSを使用するのも良いでしょう。その他、キャリア教育をeラーニング等で実施するといった就職活動支援活動や、中小企業の役員・社員と学生との交流の場の形成、人材データベースを利用して、新製品開発に必要な高度な理論や技術について教育ができる人材を検索する等、様々な使い方が考えられます。

本補助事業によって、UCIは、一高等教育機関の枠にとらわれない、より広い視点に立ったICTの活用を検討し、実施できる場とすることができました。実際に活用してみたいと思われた方は、UCIのホームページ

（<http://www.ucon-i.jp/>）の画面右上にある「お問い合わせ」からお問い合わせください。

6. しいのき迎賓館は旧石川県庁舎を改修した建物で、UCIゾーンの開設自体は、石川県による施設改修事業であり、採択された戦略GPの事業ではありません。

7. テレビ会議システム等の新設備は戦略GPによって整備しました。